



歌傷寒雜病論俗辨

脉綜丸

上

武
427
1



明中武
第 427
卷 1

嘉永壬子夏新鐫

歌傷寒雜病論俗評

擇善居藏板



目次

首卷
卷一
卷二
卷三
卷四

綜九
脉訣
提要
太陽上
太陽中

以上五卷合為前編三冊

形備於經。病從於經。序
先君子在也。曰。為從。遊。於
車。如。如。十。百。人。業。業。之
後。各。備。其。心。也。而。其。居
者。不。知。之。後。指。如。此。也。



高乃四十年。身男。海以
調。聖相。來。其。之。年。年
皆。相。名。交。家。唯。其。以
之。心。存。保。之。四。山。學。而。在
母。後。也。及。其。之。善。也。也。也。

唯。安。解。之。竟。之。也。也。
元。免。性。也。也。年。學。也。也。
續。研。古。以。深。也。又。時。也。
新。故。也。也。也。也。也。也。
深。切。詳。密。也。也。也。也。

如歌傳等。此。亦。一。也。
昔劉元賓。其。傳。令。括
其。詩。心。是。本。傳。家。誦。
而。回。時。以。本。經。矣。中。部。
用。此。說。是。其。古。之。家。

亞。公。之。必。為。通。海。心。以。
之。之。生。之。元。其。物。
刊。之。以。之。持。其。請。
有。之。之。其。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。

予の書は知の如く。手。遂。様。
中。子。ア。子。

素の如く。子。沛。池。白。

又。は。元。望。前。庭。

客。の。鴉。也。



歌傷寒雜病論俗辯首卷

綜凡

近世和蘭醫者トイフ稱呼ノ起テヨリ。醫學ノ條理
益紊テ。都鄙トモニ。繁テ和漢古今ノ醫籍ヲ讀者ハ
漸ニ少ニナリユクノミカ。傷寒雜病論ノ如キ。宇宙
内ニ比ベキ者ナキ。上古醫聖ノ遺典サヘモ。唯之ヲ
高閣ニ束テ。毫ニ顧コトナキ徒ノミ多ナリユキヌ
ルハ。吾醫道ノウヘニ於テハ。日月ノ光ノ地ニ墮テ。
長夜黒闇ノ世界トナリヌルガ如ク。惡鬼其俊ヲ得



ベキ兆ト思ハルレバ。今泰平ノ世ニ生アフテ。國家ノ德澤ヲ被リ。此職ニ在トコロノ身ヲ以テ。黙止ベキノ時ニアラズ。假令卑賤ニシテオカナク。空言施トコロアラズシテ。草萊ノ路ニ塞モノヲ薊闢ニ足ズト雖勵テ其邪說ヲ息。誠行ヲ距テ。昏昧ノ徒ヲ救ント欲コソ。セメテハ草野ノ微忠ナルベケレ。若是ニ由テ世ニ仇トシ憎ル氏。ソレハ敢テ辭スベキ所ニアラ子バ。卒ニ思ヲ起テ。先傷寒論ノ一章ゴトニ卑俗ノ語ヲ以テ歌ニ綴リ。旁ニ俚言ノ註脚ヲサヘ

加テ。其義ヲ略解シタルハ。專邊鄙ノ醫人ノ讀デ會得シ易ク。章蒙ノ記誦ニ便ヨキヲ旨トセル故ニテ。敢テ大方ニ示ントニハアラス。唯病ノ所由藥ノ成効モ。如何ナル故トモ知ヌ輩ガ。此邦相應ノ醫說ノ世間ニ存在スルヲモ辨ズ。初ヨリ西戎左道ノ醫說ノ一端ヲ聽ソレヲ可コト、思コミテ。闇ヨリ闇ヘ迷入ントスルハ。實ニ恤ムベキ一故。其徒ヲ喚回ント欲マデニテ。敢テ辯ヲ好ニハアラス。亦已一ヲ得ザル所アルガ故ナリ。

本篇ハ。脈ヲ以テ病位ヲ決ル。一ヲ主トセシモノナ
レバ。先其端ニ。ハ。脈表裏虛實ノ歌ヲ舉テ。上古診脈
ノ簡約ナルヲ示ス。且予ガ此篇ハ。唯傷寒論ヲ釋ヲ
旨トスル故ニ。本篇ニ言ザル所ノ舌胎ノ候ノ如キ
ハ。ヲリニフレテ。唯槩略ヲ説ノ三ニテ。纖悉ナル一
ハ。別ニ診舌辯義ニ記テ。此ニハ其論ニ及ザルナリ。
予ガ弱冠カリシキノ師ナリシ。櫟窓多紀先生ハ。傷
寒論ヲ講ゼラル。毎ニ必元ノ吳澄ガ。活人書辯序
ニ。漢末張仲景著傷寒論。予嘗嘆東漢之文氣。無復能

如西都。獨怪醫家此書。淵奧典雅。煥然三代之文。夏殷
世ヲ心一怪之。及觀仲景於序。卑弱殊甚。然知序乃仲
景自序。而傷寒論古湯液論。蓋上世遺書。仲景特編纂
也。ト言ヲ引レテ。今臨川吳氏ノ言ニ依テ攷ルニ。六
經ヨリ勞復ニ至ルガ如キ。文辭ノ典雅簡奧ナルハ。
古典ヲ撰用セシ所ノ文ニテ。其他ノ文氣卑弱ニ。言
迂拘ニ涉テ。世人ノ叔和ガ羸入トスル者ハ。却テ仲
景ノ手ニ出タランモ知ベカラズ。但シ傷寒例及原
文中ニ。或ハ云。疑非仲景方。或ハ云。無大黃。恐不爲大

柴胡湯。ナドノ類ハ。皆叔和ノ録スル所ニシテ。其語
氣モ明顯ナリ。其餘ハ盡仲景ノ舊文ニシテ。前後ノ
義ノ相矛盾シ。文理晦曖ニシテ。曉難モノハ。古書往
往ニアレバ。又疑ベキニ非ズ。方喻ノ諸家條ヲ逐テ
更定メ。字句ヲ刪改テ。仲景ノ舊ニ復スト云ダレド。
益本原ニ乗テ。後人ヲ惑亂スル。此ヨリ甚キハナ
ク。諸ヲ叔和ニ視ルニ。其功罪ノ輕重。果テ如何ゾヤ
ト示サレタリ。右ノ臨川吳氏ハ。名ヲ澄。字ヲ幼清ト
イフテ。幼ヨリ力ヲ聖學ニ用ヒ。易。春秋。尚書。纂言等

ノ諸書ヲ著テ。專程朱ノ學ヲ奉ゼシ。元一代ノ名儒
ナリ。カ、ル太儒ノ眼力ヨリ。此書ヲ讀デ。此評ヲセ
シモノナレバ。櫟窓先生モソレニ據レタルニハア
レド。先生兼テ古籍ヲ愛スルノ志篤ク。妄ニ改刪ス
ルヲ好マレ子バ。唯其中ノ文義ノ淵奧ナル者ヲ
採テ。今日吾醫ノ龜鑑ト爲ベシト敏ラレタルニテ。
誠ニ至當ノ確言ナリ。然ナガラ近世醫道益衰テヨ
リハ。此書ヲ講究スル人モナク。偶之ヲ讀モノモ。本
篇ニ從テ尋ントハ思ズ。只管ニ捷徑ヲ事トシテ。多

クハ吉益東洞が編録セル書ナドニ依テ其説ノ可
否ヲモ辨ゼス。妄意ニ之ヲ用ル故ニ。譬バ小兒ノ翫
具ニ剃刀ヲ授タルが如ク。病者ヲ害フ一ノ三多ケ
レバ。俗人ハ古方ト聽テハ怖キ一ニ思フヨリ。ヤガ
テ其名聞ヲ憚ル輩ハ。本篇ノ藥方ハ閣テ用ヒズ。唯
後世ノ方ノ三ニ據テ。朝三暮四ノ所置ヲ事トシ。口
給調辭ヲ以テ。其力ノ足ザルヲ叩護シ。人ノ病苦ヲ
救フ職ナル一ハ忘失タル如キノ類。今ノ醫人ノ常
態ニシテ。當世ノ流弊ナリ。加之四五十年前。サル

一醫ガ其項西洋學ヲ爲者ノ翻譯セル。ゴルテルト
云蘭人ノ内科撰要トイフ書ヲ讀テ。自己ノ創意ニ。
和蘭内科醫トイフ一ヲ唱テヨリ。聲ニ吠ノ徒歳ヲ
逐テ多クナリ。彼土ニモナキ煎劑ヲ自製シテ。淡薄
無味ナル。茅根。大麥。接骨木葉ナドヲ。一々ニモ足
ホドニ配合シ。多クハ一方ヲ以テ。衆病者毎ニ之ヲ
與フ。是ハ此邦ノ俗人が。煎湯ヲ以テ病者最第一ノ
物ト思ヘル意ニ阿リ。其情ヲ鈎マデノ術ナレバ。自
己ニモ實ハ無益ノ物ト思ハヌハアルマジ。且其證

ニモアラヌ病者ニオリクハ麻腫藥ナドヲ與テ。一時ノ疼痛ヲ止寐カヌル者ヲ睡ラセ。咳嗽ヲ安ナドシテ。俗人ノ情ヲ掉シ。後害ヲ殘一ヲモ顧ズ。唯詐詭ノ術ヲ挾テ。無智ノ者ヲ誑賺一ヲ事トシテ。夢ニモ惻怛ノ情ナキハ。滔々タル天下ノ蘭醫。大率此風ナリ。是ハ自彼土ノ醫風ヲ慕ヘル心ヨリ。イツトナク夷ニ變セラレシモノナルベシ。櫟窓先生在世ノ頃ハ。此風今ノ如クニハ甚カラザリシモ。尚之ヲ厭レシカバ。近世ノ醫風ヲ視ラレタランニハ。イカデ之

ヲ憎タマハザラン。又邊鄙ヨリ三都へ遊學スル醫生ナドモ。右ノ和蘭ノ說ヲ聽テハ。彼ガ在郷ニテ讀タル。衆方規矩。醫療手引草ナドニハ。大ニ優タルヤウニ思フヨリ。世ニ梓行セル誤譯ガチナル蘭醫書ヲ得テ之ヲ讀。或ハ其顯門ノ醫家ニ從テ。其說ヲ聽ヤ、文オアル者ハ。其横行ノ書ヲ讀一ヲ學ビ。未試ザル論辯ヲ取テ。俗人ニ誇。彼ハ漢醫ナリ。彼奚治法ヲ知ン。吾西洋醫術ノ如キハ。解剖ヨリ病原ヲ探リ。分析ニ由テ藥性ヲ窮ム。此ノ如クナラザレバ。病ハ

決シテ治スベカラズナト言騷ニ從テ之ニ傾モノ
歲月ヲ逐テ多クナリ。今ニ至リテハ。世間ニモ漢醫
蘭醫ノ稱呼アルニ至レリ。和蘭者流ノ此ノ如ク世
ニ行ハル、ハ。大ニ國家ノ妖孽ニシテ。天下ノ巨害
ナル一アリ。然而尚幸ニ旨趣微ニシテ條理顯ニ。知
易シテ修易キ。往古醫聖ノ規則法度。嚴然トシテ具
タル書ノ。今ノ世ニモ存在セレバ。是ニ據テコソ邪
說ノ流弊モ救ルベケレ。然ヲ漢醫ト稱セラル、輩
モ。宋明已後ノ謬說ニノミ從テ。專其藥方ヲ用ヒ。其

妄誕空論ヲ採テ。醫說ナリトシテ唱ル故ニ。西戎詭
譎ノ徒ノ謾ヲモ受ル一アルニ至ルハ。豈嘆スベク
哀ムベキ一ニアラスヤ。予此事ヲ患ルノ念切ナル
ヨリ。先師ノ教誡ヲ忘ルトニハアラ子ド。本篇ノ中
ニ於テ。其條理井然トシテ。治術ノ規則ト爲ベキ章
ヲ撰ソレヲ次第シテ。此ノ如キ著書ニ及ベルモ。唯
此古典ノ吾邦ニ相應セル大道ニテ。直ニ至誠一貫
ノ真理上ヨリ來者ナル一ヲ。邊土ヨリ來學者ニモ
知ラセタク思ヘル故ニテ。其義旨ノ淵底ハ。暫置テ

論ゼザル一多ク。且文辭ニ疎キ手ノ。一時ニ成タル
書ナルガウヘニ。簡約ヲノ三事トスレバ。其意趣ノ
通ジ難トコロモ亦甚多カルベシ。讀者其旨ヲ得テ。
其義ヲ害スル一ナクンバ可ナリ。
傷寒雜病論ノ書タルヤ。首トシテ傷寒ヲ説テ。其病
位ヲ以テ。推テ弘ク雜病ニ及ボスノ標準トセシナ
レバ。其義ヲ以テ書ノ題名トセル一固ヨリ論ナシ。
此書ヲ後漢ノ張機字仲景ナル者ノ編集スル所ト
云ハ。唯其序文ニ見エタルマデニテ。外ニ據トスベ

キ一アル一ナシ。皇甫謐ガ甲乙經ノ序ニ。仲景ガ王
仲宣ニ五石湯ヲ服一ヲス、メタル一ヲ記シ。晉書
ノ皇甫謐ガ傳ニモ。仲景垂妙于定方トイヘル文ノ
見ユルノ三ニテ。後漢書ニ傳モナク。又長沙ノ太守
タル證據モアラス。サレ氏此書ノ序文及編集セシ
趣ヲ以テ考レバ。好デ醫事ヲ修テ深切ナル人ト見
エナガラ。療治ニハ疎カリシヤウニ思ハルレバ。後
漢書ニ其傳ナキモ亦然ベキ一ナルベシ。但張氏ハ
南陽ノ族姓タリトイヒ。又長沙太守張羨トイフ人

モアリテ。註ニ英雄記ヲ引テ。張羨南陽人ナリトイ
ヘバ。此人モ又其一族ナルベシ。サレ氏後漢ノ靈帝
ノ建寧九年ヨリ。光和二年ニ至ル迄。天下ニ疫疾三
タビマデ流行セシ由見ユレバ。序文ノ建安ハ建寧
ノ誤ナラントイフ説モアリテ。仲景ハ張羨以前ノ
人ナリシモ知ベカラズ。ソレハ何ニモアレ。此編集
ノ勞アレバコゾ。三代以上ノ古典ノ。普天ノ下最第
一ナル醫籍モ。後ノ世ニ遺タレ。サラバ此業ニ在モ
ノハ。綜テ此人ノ澤ヲ被ズトハ言ガタシ。永富鳳助

ガ論ニ。世醫動バ謂傷寒論ノ外邪ヲ治スル。天下コ
レニ加ルコトナシ。雜病ニ至テハ。未必シモ然ラズト。
噫呼卑卑哉ソレ傷寒ニ萬病アリ。萬病ニ傷寒アリ。
廻互參究シテ。始テ能傷寒ヲ治スベク。亦始テ萬病
ヲ治スベシ。故ニ傷寒ノ書タル。證ノ變化ヲ極テ以
テ其治方ヲ盡シ。萬病自其中ニ顯列ス。乃雜病ト雖
亦豈コレニ尚ル者アラシヤ。是ヲ以テ。學者苟モ能
研究底厲シテ。一タビ驪珠ヲ此中ニ握ナバ。治術ノ
大本自立テ。千金外臺宋元。遼明ノ瑣言家説モ。皆我

使用トナルハ。猶正統一タビ定ルキハ。九夷八蠻悉
其正朔ヲ奉ズルガ如シトイヘリ。是先吾心ヲ獲タ
ル言ナレバ。殊ニ之ヲ表出セルナリ。
本篇ニ載ルトコロノ方中ノ。炙甘草湯。文蛤散。麻黃
連軛赤小豆湯。半夏散及湯。白散。四逆散。烏梅圓。麻黃
升麻湯。大陷胸丸。白頭翁湯等ノ類ノ如キ。其中用ル
トコロノモノナキニ非ト雖。方意拙劣ニシテ。全後
人ノ羈入ニ係モノト思ルレバ之ヲ省ク。其他燒視
散ノ愚陋ナル。枳實梔子湯ノ方證相敵セザル。牡蠣

澤瀉散ノ。猥雜用ガタキ類ハ。總テ此簡約ノ書中ニ
於テ之ヲ說罄一能ハズ。翊竹葉石膏湯ノ。傷寒解後。
虛羸少氣。氣逆欲吐者ニ。石膏ヲ主用スルハ。三陽合
病ノ。口不仁。而面垢。讖語。遺尿者ニ。白虎湯ヲ用ルト
コロノ意ニ同ク。千金方ノ。乳無汁者ニ。石膏一味ヲ
用ヒ。外臺秘要ノ。骨蒸勞熱。久嗽ニ。石膏一斤ニ。甘草
一兩ヲ隊伍セ。細末シテ。長服サスルナドノ類ハ。全
本篇ノ旨ヲ得タルモノナリ。然テ後世石膏ノ主能
ヲ誤シヨリ。此ニ疑惑ヲ致ス者多ク。石膏ノ真効。終

ニハ隠テ見レザルニ至シナリ。予ガ爲方絜矩ニ。諸
方ヲ檢覈シテ。効用ノ一ニ歸スルヲ詳ニ辯ジタ
リ。言頗煩冗ニ涉レバ。此篇ニハ其義ニ及バザルナ
リ。
金匱要略ハ。本篇ノ餘義殘缺トハ知ルレド。終篇ヲ
通觀スルニ。古典ト思ル、トコロハ少ク。全クハ宋
ノ世ニ至テ綴集メ。旁諸書ヨリ採補テ一篇ト成タ
ル者ナルベシ。故ニ今其古典トオボシキ章ヲ撰出
テ。別ニ歌訣ニ作り。ソレニモ俗解ヲ註シテ。此篇ニ

次テ世ニ問ントス。詳ナルハ其書ニ於テ言ベキ
ナリ。
西洋醫學ノ本原ハ人屍ヲ解剖シテ。藏府脉絡ノ終
始スルトコロヲ認。身體器具ノ官能ヲ知テ。其病ノ
發スル所以ヲ索メ。一切ノ藥物ヲ分析シテ。其原質
ヲ窮。其性効ヲ察シテ。治術ノ法ヲ建ルトナリ。彼土
ノ昔ハ。此説モ今ノヤウニハアラザリシガ。輒近ニ
至テ。頻ニ之ヲ稱譽シテ。專唱ルトハナリタルナ
リ。解剖ノ事ハ。君子タル者ノ忍ザル所ナレド。戰國

以降ニハ行シ者モアリシニヤ。靈樞ニモ聊其説見
エタレ氏。正大高明ノ醫道ノ上ヨリ視レバ。畢竟ハ
無益ト云ベシ。分析ノ術ハ。殊ニ西洋ニ始レルニハ
アラテ。遠ク竺土ノ昔ニモ既ニ其説アリテ。八腴度
論。阿毘達磨俱舍論ナドニモ其事ヲ言タレ氏。世俗
諦ナリトシテ擯タルハ。太道ノ上ニ於テ其用ナキ
ヲ以テナリ。假令其術ニ由テ窮得タリ氏。偏倚ノ藥
物ノ性味ニ感ジテ。身體ノ妙機ノ。ソレニ應ジテ効
ヲ見ス所以ノ理ニ於テハ。中々人ノ智カラ以テ察

知ベキニアラザレバ。其論スル所ノ説スベテ臆測
左計タルヲ免レズ。彼土ニ於テモ。希ニハ其非ヲ知
モノ有テ。各醫ト稱セラル。ヒュヘラントイヘル
者ノ説ニ。人身ノ内藏ニ。藥物ノ性味ヲ受テ。ソレニ
對抗スルカラ發スルノ理ハ。醫人ノ思慮ヲ以テ度
リ。分析家ノ原質ヲ取テ論ズルトモ。決シテ窮知ル
モノニアラストイヒ。又。分析家ノ説ニ據レバ。阿
芙蓉。蘆薈。甘草ノ三種ハ同原質トスレ氏。今之ヲ用
ルニ。霄壤ノ隔アレバ。分析術ニ由テ性効ヲ知ント

スルハ大ナル謬也ナドイヘルハ。予ガ持論ト符節ヲ合タル者如ク。彼土ニ於テハ確言ナレバ。之ヲ是トスル者ハ少ク。トカクニ臆想ヲ以テ天地妙用ノ機關ヲ談ゼントスルガ。乃我狄ノ人ノ心ナリ。且天地ノ妙用ハ。自然相推テ。屈伸相感スル所ニ生ジ。和合ヲ以テ生成スル者ナルヲ。却テ刺螫ト爲テ。人身ハ刺螫ニ由テ立者トス。其道ノ本源既ニ誤レルハ。此ノ如クナレバ。イカデカ易簡ノ大道ヲ知ベキ。然ラ溥樸質實ナル此邦ニ生テ。我狄ノ左道ヲ奉ジ。甘

ンジテ其奴隷トナラントスルハ。皆是國賊ノ徒ナリ。サレバコソ妖孽巨害トハイヘルニテ。ヤガテ天下ノ風俗ヲ亂ベキ端ヲモ啓ンカト思ハル、ヨリ。深ク之ヲ怖ルナレ。決シテ吾小伎ノ爲ニノ三言ニハアラス。其委曲ナルハ。予別ニ論定ノ説アリテ。彼ガ格物ノ義ヲ破シタレバ。此ニハ唯其醫事ニ預ル梗槩ヲ記シテ。此冥途ニ迷入ントスル者ノ耳目ヲ驚醒スノ三也。

本篇ハ。三代以前ノ古典ニハアレド。周世ノ鐘。誦。鈞。

銚等ノ古名ハナク。漢以來ノ斤。兩。升。合ノ名ヲ以テ。
藥量ヲ言タレバ。其載ル所ノ藥方ハ。古ヨリ傳ル所
ナリトモ。權量ハ。後漢ニ編集セシ時ニ。其世ノ制ヲ
用ヒタルナルベシ。然シテ其權衡度量ノ制モ。考證
スル所區々ニテ。今ニ於テ一定セス。故ニ本篇ノ銖
兩水率モ。預量衡ヲ定難ケレド。今試ニ予ガ平素用
ル所ヲ以テ言バ。假令バ。桂枝湯ノ如キ。桂枝芍藥各
一錢。大棗六分。甘草ハ多ケレバ。病者多クハ服得ズ。
故ニ減テ三分ノ一ヲ用ヒテ二分トス。四味合テ二

錢八分ニ。生薑三片ヲ加ヘ。水一合ニ勺ヲ以テ煮テ
八勺ヲ取ル。小柴胡湯ノ如キハ。柴胡一錢二分。黃芩
人參各六分。半夏八分。甘草ハ其三ガ一ヲ用ヒテ二
分トシ。大棗六分。合テ四錢。生薑三片或ハ五片ヲ加
ヘ。水一合ニ勺ヲ以テ煎テ六勺ヲ取テ。再煎ノ法ヲ
用ヒズ。四逆湯ノ如キハ。附子一錢六分。乾薑八分。甘
草五分。三味合テ二錢九分。水一合ニ勺ヲ以テ煎テ
五勺ニ至ル。其附子。乾薑ノ分量ヲ倍スルモノト雖
ニ合ノ水ヲ以テ煎テ八勺ニ至ルノミ。スベテ藥劑

ノ銖兩。水ノ多少ハ。病者ニ應ジテ増減スベキ者ニ
テ。預定カクシヨクサマリタル一アルベカラズ。附子ノ如キハ。古
方スベテ濃煎コウケンヲ用フ。今之ヲ試ルニ。沸湯ニフリタ
テ、服シムレバ。量少クシテ瞑眩シ。武火ニテ輕ク
煎ジタルハ。少ク瞑眩シ。文火ニテ濃ク煎ジタルハ。
分量多クレバ。瞑眩セズ。サレバ服劇ルニ至テ。漸ニ
其煎法ヲ略シ。銖兩ヲモ増加シテ可ナリ。スベテ烏
附ノ類ヲ。水氣アル者ニ用ルニ。大ニ瞑眩シテ胃狀バウジツ
ノ如クナリタルハ。効ヲ得ル一ノ速ナル一。金匱ニ

言ヘルガ如シ。故ニ強ニ瞑眩ヲ怖ベキニアラザレ
バ。烏附ノ煎法モ。病者ニ應ジテ酌用アルベキ一ナ
リ。惣テ本篇ノ銖兩水率煎法ハ。其大槩ヲ言ル者ト
シテ。必シモ柱ニ膠シタルヤウニ思フベカラズ。
長田徳本ガ。澤藏司ト云ル者ニ與タル。醫ノ辯ノ中
ニ。脉浮表證皆風寒ヨリ起ト心得ベシ。何ノ煩ナリ
氏。脉ダニ浮デ出バ。先麻桂ノ類ニテ汗ヲ出スベシ。
脉沈シンデハヤクウツハ。必裏ノ病ナリ。裏證ト云ハ。臟
ノ内へ病入テ。骨ヨリ起リ。腹中ヨリ持テ出タル煩

ナリ。治方ハ。汗吐下和ヨリ外ニ秘術ハナキゾ。何ゾ
コトトク神變不思議ノ藥アリト。人ノ云トモ。別ナ
ル一ハナシ。タバ病ハ。熱シテ利ツカヘ。身ノ内毒コ
モリ。出ベキカタナク。立居ニ苦ニ悲テ煩フト思フ
ベシ。萬病先ハ風ヨリ起ル。藥ハ毒有テ烈キヨシ。法
ハ越人長沙ニ求ヨト云リ。此說輕果ニテ據ベカラ
ザルガ如シト雖。彼翁晩年ノ趣向此言ニ著テ。其伎
ノ群ヲ出タル所ナリ。本篇ノ病位ニ由テ。其治法ヲ
定ル一ヲ言ハズ。唯法ヲ越人長沙ニ求ヨトノ三教

タルハ。其言大簡ニ過テ。稍憾ベキニ似タレド。又其
見ノ卓タルヲ見ルニ足リ。甲斐ノ醫士。磯野汝行ナ
ル者ガ。小原村ノ早川五兵衛ト云農家ヨリ傳ヘタ
ル。徳本ノ手書ヲ看タリシニ。其十九方ト云ハ。全ク
本篇ノ方ニ原テ自製シタル者ト思ハル。世ニ行ハ
ルノ十九方。及青囊瑣探ニ救急十九方。及極秘方。或
載ルモノトハ。異同アリ。ハ。頗踈放ナル處ア
リテ。規則ト爲難一モ多シ。其中偶ニハ本篇ノ意ヲ
取テ製造シタル方モ見エテ。亦醫ノ教トナルベキ

言^{コト}モオリくハナキニ非^ズ。此人ハ戰^{セン}國^{クニ}ノ世^ヨニ當^アリ
テ。邊^{カタ}郷^イニ生長^シ。從^{シテ}學^{ベキ}師^モナク。採^{トリ}テ讀^ムベキ
書^モアラ子^バ。唯^{ドク}獨^{トク}得^ルノ見^{ケン}ヲ以^テ。本^ノ篇^ヲ精^{セイ}讀^ムシ。之^ヲ
ヲ病^ル者^ニ試^ムテ。竟^{ツヒ}ニコレマデニ造^イシハ。頗^{スル}豪^{ゴウ}傑^{ケツ}ノ士^シ
ト云^ベシ。實^ニ此^ノ翁^ノ言^ニ從^ヒテ。法^ノ則^ヲ本^ノ篇^ニ求^ム。其^ノ
真^シ意^ヲ得^タラン後^ニ。和^漢ノ醫^イ籍^ヲ涉^セ獵^シ。旁^カ民^間
ニ傳^ツル妙^ノ藥^奇方^ノ類^及異^邦蕃^夷ノ藥^材ニテモ。其^ノ
宜^キモノヲ採^{トリ}テ。之^ヲ自^ジ在^ニ用^ヒナバ。乃^ス聖^人ノ所^ス
謂^{ユル}厚^ク生^{コト}利^{ヨウ}用^ノ道^ニシテ。濟^{セイ}世^{ケイ}惠^{ケイ}民^ノ一^ト助^{ジョ}ナルベシ。
ヒトノ生コトヲヨクシテ

サレ氏^コ是^ニ至^テハ。廓^{カラ}然^{ゼン}タル公^{コウ}平^{ヘイ}ニシテ。私^シ無^キノ
心^{ヨリ}之^ヲ行^ハニアラザレバ。能^ユ為^レ得^ルベキ^一氏^思ハ
レ子^バ。其^{コト}事^{ヤキ}易^ニ似^テ。其^{コト}實^ハ甚^シ難^シ。先^ク々^ク初^メ心^ノ輩^{トモ}
ハ。決^カシテ他^ヲ顧^カル^一ナク。務^ムテ榮^{エイ}利^ノ心^ヲ去^テ。一^ト
途^ニ本^ノ篇^ノ規^キ則^ヲ守^リ。之^ヲ病^ル者^ニ驗^ル。多^ク年^ニ
シテ懈^{オク}ラズバ。確^クニ其^ノ効^{カウ}用^ヲ知^ルアルベシ。然^{シカ}ル後^ノ
ハ。多^ク益^ヲ辨^ズバ。ケレバ。已^レガ意^ニ從^フテ。百^ノ家^ヲ取^ル
捨^ルスルモ。亦^モ可^クナルニ似^タレ氏^ノ言^ニ近^ク而^テ指^キ遠^ク者^ハ善^ク言^ハ
也^ト。守^ル約^而施^キ博^ク者^ハ善^ク道^也ト。孟^ノ子^モ言^ハタル如^クスベ

テノ事ハ。卑近ニシテ簡約ヲ善トスルモノナレバ。
藥方モナルベキタケ多キハ好マシカラズ。古昔華
陀ガ用ル所ノ方數首ニ過ザレ氏。良醫ノ名ヲ天下
ニ得タレバ。必シモ方ノ多少ニ關ルニアラズ。此レ
バ。簡約ニシテ正當ナル治法ヲ得ント庶幾コソ。太
道ニハ合ベケレ。唯造次ニモ顛沛ニモ。忘マシキハ
仁慈ノ一念ナリ。必忽諸ニ思フナカレ。
時嘉永三庚戌歲夏四月既望

平野重誠元亮 識

歌傷寒雜病論俗辯卷一

經緯虛實十二脉位

本篇の十二の脉と説と聴けり。外ノ脉をいひぬ。
脉ハ。病ノ所在ヲ察シ。死生ヲ決シ。進退ヲ定ルト
コロノ一大緊要ニシテ。人身血液ノ有餘不足モ。
元氣ノ旺盛衰乏モ。綜テ之ニ由テ診知ルレバ。脉
ヨリ確ナルハナク。亦著キハナシ。然ルニ王叔和
ガ脉經世ニ行レテヨリ。古昔簡約ノ法ハ。イツト
ナク地ニ墮テ。知者ナク。唯彼書ニ舉トコロノ二

十四脉ノ名目ニノ三惑ヒ之ヲ論スル一纖巧ニ
過之ヲ譚ズル一精細ニ至テ言ハハ聽ベキガ如
ナルモ事ニ處シテハ必合ス。譬バ浮屠氏ノ天
地獄ヲ談スルガ口ニハ言ベクシテ眼ニハ見ル
一能ザルガ如シ。然ドモ彼ハ仍之ヲ以テ惡ヲ懲
シ善ヲ勸ルノ方僂トストナレバ。愚蒙ヲ威怖シ
ムルニハ其益ナキニ非ズ。此ハ實際ニ驗。今日ニ
校テ一モ的當一ナク。空論虚誕ノミ多ケレバ。却
テ人ヲ惑シ疑ヲ生ゼシムルノ損失アリテ。其害

少カラズ。故如何トナレバ。三指舉按ノ間イカデ
カ二十四脉ニ二十四脉ヲ乗タル邊際モナキ脉
狀ヲ診得テ。其浮中沈ヲ定。其虚實ヲ言一ヲ得ン
ヤ。况ヤ三焦五藏六府ノ類ヲ寸關尺ニ配當テ。左
右ノ部位ヲ論ジ。病ノ所在ヲ察シ。各病ノ脉狀ヲ
説ガ如キ。スベテ是臆斷計度ニテ。畢竟無用ノ窺
語ノミ。サレバコソ彼土ニモ書ヲ著テ脉ヲ言ザ
ル。戴元禮ガ如キ者モ出本邦ニモ脉ヲ廢テ採サ
ル。吉益周助ガゴトキ説モ興リタレ。是等ハ全ク

古昔ノ脉説ノ。易簡ニシテ明易キモノニ心ヲ注
ズシテ。唯後世ノ猥雜紛冗ナル論ノ窺知_ス能_ハザ
ルニ困苦テ。遂ニハ脉ヲ以テ治術ニ裨益ナキ者
トシテ。之ヲ廢ルニモ至ルナリ。從來脉ハ外候ノ
最切實ナル者ナレバコソ。本篇各所ニ。スベテ脉
ヲ以テ病位ヲ斷陰陽ヲ分テ。病ノ淺深難易ヲ察
スル_ルヲ説モスレ。サラバ是ニ據テ其廢ベカラ
ザル_ルヲ會得シ。心ヲ潛思ヲ致テ。之ヲ事實ニ試
テ。其要領ヲ得ルニ至ル_ルヲ求ベシ。予嘗テ本篇

ノ脉ヲ類聚テ。其義ヲ釋タル書アリ。名ツケテ診
脉辯義トイフ。此ニハ且其槩略ヲ記テ。及門ノ童
蒙ニ授ケ。我ニ求ル者ヲシテ。岐路ニ迷ザラシム
ルノ指南車トス。素ヨリテニハモ合又通俗ノ歌
ナドハ。唯暗誦ニ便ヨキ爲ノミニテ。大方ニ公ニ
スベキ者ニモアラ子ト。唯本篇簡易ノ診脉ノ
ヲ。弘人ニモ知セタク思ヨリ。已カ拙劣ヲモ忘レ。
世ノ誹謗ヲモ顧ズ。此略辯ヲ記テ。八脉。表裏。虛實
ノ狀ヲ説テ。古昔ノ脉説ノ太義ヲ述ルノミ。

浮の脈フはうかびく指ユビよりあるは肉ニクを摸オセせを教チリくはあはれ

本篇ハ。凡スベテテ浮ウキノ脈ヲ以テ病ノ表ニ在アルトコロノ

候トシテ。汗ヲ發セシムル一ヲ要トス。傷寒ノ三

ニ限カキラス。雜病トモニ此脈ヲ見ミキハ。下劑ヲ禁ケンジ

テ。表氣ヲ排達一ヲ主トスルガ。本篇治法ノ規則キコウ

ト知ベシ。

沈脈チンミヤクは肉のちるるは膏ハダのちるるあはれぬあり

此脈ハ病ノ裡ニアル候ニテ。妄ニ汗スベカラザ

ルヲ以テ先ハソノ法トス。但シ少陰病ニテ。太陽

病位ノ發熱ヲ併タル證ハ。麻黄附子細辛湯ヲ用

レ氏。脈既ニ沈ナルハ其裡ニ壅鬱アルノ候ナガ

ラ。惡寒ノ昇陽ヲ抑遏ノ證アレバ。微シ汗ヲ發セ

シメザル一ヲ得ズ。故ニ麻黄附子甘艸湯ノ條ニ

モ。其壅鬱ノ部ハ唯頭中ニ在テ。イマダ嘔逆下利。

腹拘急等ノ證ヲ發スルニ至ザル一ヲ示テ。以テ

三日無裏證故微發汗也ト言ヘリ。然レバ頭部ノ

但欲寐也ト言ヘル最初ノ證アル片モ。其脈ハ微

細ニシテ沈ナルヲ以テ。其候トスレ氏。腠理肌表

ヨリ壅閉レテ。頭裏ニ迫逼テ。外表へ抗拒ノ勢ナ
キヲ以テ。微ク汗ヲ發セシムルハ。唯其外ヨリ壓
ラレタル者ヲ發カシガ爲ナリ。サレバ麻黄ヲ附
子ニ隊伍タル劑ヲ以テ。衝撞挑撥テ汗ヲ發スル
トコロノ意ハ。太陽病位ニ在テ。桂枝。麻黄ノ汗ヲ
發スル者トハ。自區別アリ。故ニ脉沈ナリト言ハ。
陽位ニ在モノトハ異同アリテ。決シテ混ズベカ
ラス。又此少陰病位ノ脉ヲ。特徴細ニシテ沈ナル
者トノミ思ナカレ。ヲリク異狀ヲ見ス者ヲ診

得^{ウル}一アレバ。一槩ニハ定^{サダ}テ言^{イヒ}ガタシ。精細^{シホシホ}一ハ本
條ニ於テ之ヲ説ベシ。又太陽中篇ニ。病發熱頭痛。
脉反沈。若不差。身體疼痛。當救其裏。宜四逆湯トア
リテ。發熱頭痛ノ太陽病位ニ關係トコロノ證ア
リト雖。其脉沈ナル并ニハ。四逆湯ヲ行ベキヲ
論シ。乾薑附子湯ノ證ニ。脉沈微トイヒ。桂枝加芍
藥生薑人參湯ノ證ニ。脉沈遲トイヒ。茯苓桂枝白
朮甘草湯ノ脉沈緊トイフガ如キ。スベテ其差別
アルヲ參究稽核テ。治術ニ違錯ナキヤウニス

ベキナレ氏。備由ニ至テハ。此畧辯ノ能盡トコロ
 ニアラザルナリ。少陰病ノ最初。脈沈ナルニ。尚其
 汗ヲ發スルモ。裏ヲ主トスレバ
 ナリ。本條ニ參觀テ。能其義ヲ明ムベシ。動ハ此
 最初ノ治ヲ誤易キ者ナレハ。豫能研究ベシ。
 緩ハゆるみ反糸ハちゆうてまろし^{ウシ}？^{ウシ}裏表^{ウシ}？^{ウシ}あまそおの^{ウシ}

櫟窓先生ノ説ニ。緩ハ弛也。急ナラザルナリ。吳山
 甫ガ。琴絃ヲ以テ喻ル者。此脈ノ状ヲ得タリトア
 リ。是ハ琴絲ノ緩タルニ譬シナレバ。巾廣キヲ云
 ニハアラズ。唯張ノナキヲ云リ。又。緊ハ散ゼザル

也ト釋テ。其廣サニ界限アリテ。脈ト肉ト劃然ト
 シテ分明ナル也ト。脈學輯要ニ見ユ。此説ニ從片
 ハ。弦ト云ベキ者ニ似タレ氏。其中ヤ、差別アリ。
 説文。緊字ノ註ニ。絲ヲ纏^マノ急ナル也トアリテ。
 糸ニ急クヨリヲカケタル義ナレバ。散ゼサル也
 ト言ルヲ以テ。正當トスベシ。サレバ。緩ノタヨク
 トシタル者ト。相表裏スル脈ナリト知テ。二ノ間
 何レカ其状ヲ認得タランニハ。二脈トモニ必診
 決ベシ。

遅チハハチテクチ救サツハハチテクチ促ソウハハチテクチ了リョウハハチテクチ救サツハハチテクチ之ノ數スハハチテクチ

遲ト數ノ脉ノ狀ハ。字ノ如クナレバ。別テ説ニ及
ズ。本篇結胸ノ條ニ。動數變遲トイヒ。陽明篇ニ。陽
明病。脉遲。汗出多。云云トイヒ。陽明病。脉遲。雖汗出
云云ノ類ノ如キ。診脉辯義ニ悉其類例ヲ舉タル
モ。此篇ニハ之ヲ説ニ及ザレバ。能之ヲ本篇ニ參
勘テ。其要領ヲ照管ベキナリ。數ハ。病進ムノ候ナ
ルルハ。次條ニ於テ之ヲ論リ。促ソウヲ。古人ノ數中一
止ノ脉トシタルハ。大ニ誤ナルル。樸窓先生ニ辯
止ノ脉トシタルハ。大ニ誤ナルル。樸窓先生ニ辯

アリテ。唯寸口ニ急促キウソウソウスル脉トナシ。促數同義ト
セラレタルヲ。山田圖南モ其説ヲ稱シテ。且言ク。
數促同義ナリトイヘ氏。字書ヲ按ズルニ。促ハ。迫
也。感也。又。局促キウソク。小貌コウモウナドアレバ。數小ノ脉ヲイ
ヘルナリト。若此説ニ從フハニハ。細數。微數ト云
モノト何ヲ以テ分タン。畢竟促ハ迫ノ義モアル
字ナレバ。全ク一ナリトイフニハアラ子ド。俗ニ
セハシナシト云ホドノ一ニテ。數ノ類トシテ可
ナルベシ。

細ハみそくハカハみそくやとおハハハハ洪ト大トハカハみそく

昔ヨリ細ト微トノ脈狀ヲ論ズルモノ。混ジテ一
 ニ歸スルヲナシ。今本篇ニ就テ考ニ。細微ノ形狀
 素異同ナク。通ジテ稱スルモノト見ユ。ソノ小ト
 イフモ。亦同類ナリ。洪ハ。澤ト同字ニテ。俱ニ大ト
 訓字ナレバ。脈ノ上ニ於テモ。洪ト大トノ差別ア
 ルヲナシ。脈經ニ。煩ク二十四脈ノ名ヲ並舉タル
 スラ。大トイフ目ヲ立ザルニテ。其異ナラザルヲ
 明ナリ。故ニ今微ト洪トノ二ノ名目ヲ知テ後ハ。

洪ニテモ微ニテモ。一ノ狀ヲ診得バ。此表裏ノ二

脈ハ。自指下ニ瞭然ナルベシ。

瀦ハミツクミツクハ脈あり。滑ハぬめり山法あり。小こつこつハ脈

瀦。瀦。澀ノ三字トモニ。色立切ニテ。不滑也トアリ

テ。シブルト訓滑ハ。滑利ト云テ。ナメラカト訓ナ

レバ。瀦ト滑ハ。相表裡スル脈ナリト知ベシ。

虚くハミツクハ脈あり。按オシテモ。小こつこつハ脈

虚ト實トノ二ツハ。諸脈ニ通ジテ有ザル者ナシ。

虚ノ至極ナル者ハ。關尺ノ部ヲ深按テ骨ニ至レ

バ。其脉寸部ニ應ゼヌモノナリ。是ハ其病證ニサ
セル懼ナシト雖。大ニ懼ベキノ候トス。實ノ方ハ。
舉按トモニカアル状ヲイヘリ。此虚實ノ名目ハ。
別ニ二件ノ脉アルニ非ズ。唯諸脉ノ上ニ於テ。必
其虚實ノ辨アリテ。血液ノ有餘不足ト。元氣ノ旺
盛衰之ヲ診得ベキ候トスルナリ。
浮沈を候ふは、持の徑八脈を浮沈へり、律ゆゑん
老く、實を候ふは、脈の徑八脈を浮沈へり、律ゆゑん
此ノ如ク本編ノ脉名ニ因テ定ムレハ。唯此緩緊。

遲。數。洪。微。瀦。滑ノ八脉ノ三ニテ。上古診脉ノ法ハ。
至テ簡約ニシテ知易キ者ト云ベシ。而此八脉ヲ
相表裡スル片ハ。緩。遲。洪。瀦。數。微。滑カノ四脉
ヲ能診得片ハ。八脉トモニ自指下ニ明ナリ。浮沈
虚實ハ。諸脉へ涉テ。病ノ淺深ト進退ト。有餘ト不
足トヲ斷ル者ナレバ。且私意ヲ以テ。浮沈ヲ經ト
シ。八脉ヲ緯トシ。ソレニ虚實ヲ加テ。此十二脉ヲ
以テ。吾門診脉ノ法ト定ム。其故ハ。本篇ノ古典ト
オホシキ章ニ就テ尋ルニ。此外ニ脉ヲ言者ナク。

且此十二脉ヲ以テ。病ノ變化。證ノ状態ヲ盡テ。聊
モ遺ナケレバナリ。其他中空ヲ花トシ。數ノ極
ヲ疾トシ。伏ノ筋下ヲ行。革ノ内空虚ニシテ。鼓皮
ヲ按ガゴトキ。牢ノ堅極ナル。軟ト弱トノ差別ア
ル。動ヲ關上ニ見ル者トシ。散ノ渙漫シテ收ラザ
ルト言ガ如キハ。イカデカ指下ニ別テ得ベケ
ンヤ。唯結ノ常數ナキ。代ノ動中ニ一止スル。弦ノ
弓弦ヲ張ガ如ク。強シテ胃氣ナキノ類ハ。ヤ、診
得ベキガ如クナレド。スベテ煩ク名目ヲ立ル所

ハ。初學ノ輩。唯茫洋トシテ其津涯ヲ知レ能ス。畢
生ノ力ヲ此ニ用ルトモ。能辨スル一ナケレバ。竟
ニハ脉ヲ以テ治術ニ裨益ナシトスルノ説ニ惑
テ。外候ニ切實ナル者。脉ニ過タルハナキ一ヲ知
ス。徒ニ生涯ヲ誤ルハ。全ク其適從トコロナキガ
故ナリ。凡テノ事簡約ナラザレバ。實際ノ上ニ於
テ。親ガタク又行ガタシ。今本編ノ脉ノ表裏相對
シテ唯四道ナルガ如キ。此ニ心ヲ潜テ。歲月ヲ積
キハ。必自得スル所アリテ。脉法ノ奥妙ヲ窺ヒ得

ル一アルベシ。

この部と按く寸部かきぬ、胃の気のつくる脈とむせ
此事ハ。前ノ虚實ノ下ニ既ニ言ルガ如シ。是ヲ胃
氣ト云ハ。胃ハ水穀ノ會ニシテ。血液ヲ成造身體
ヲ營養トコロノ本源ニテ。是乃精氣ナリ。素問ニ。
精氣奪則虚スト言テ。此按切ル、脈ハ。精氣虚極
ノ脈ニシテ。甚シキ惡候ナリ。故ニ脈ノ洪實ニシ
テカアルガ如キモ。按テ骨ニ至テ。微モ寸部ニ徹
ズハ。精氣ノ將ニ盡ントスルノ候ニテ。外證佳ナ

リトモ。決シテ慢視ナラズ。實ニ怖ベキノ脈ナレ
バ。能診得テ。豫其病ノ進退ヲ知。死生ヲ斷ベシ。サ
レド細心ニ窺子バ。甚辨ガタキ脈狀ナリ。

脈ノ病のしむ候とむせ法病の救をいむ脈づのしむ

數ハ。病勢進トコロノ候トス。故ニ證候ニ事故ナ
シトイフ氏。脈ノ數ナルハ。決シテ疎放スベカラ
ズ。脈書ニ。疾トイハル名ヲ舉テ。數ノ甚クシテ急
速ナル者トアレ氏。煩ク名ヲ異ニスルモ。畢竟ハ
無益ナレバ。今敢テ用ヒス。

右左^{ニキヒナリ}もろもろぬ脈もあるあし^{キフ}もろもろぬ脈もあるあし^{キフ}もろもろぬ脈もあるあし^{キフ}
身ニ病ナク。天稟^{ツキ}ニテ左右ノ脈ヲ異^{コト}ニスルモノ
アリ。是ハ必^{オホク}シモ怖^{オソ}ベキニアラズ。唯病アリテ忽^{ニハ}
然ニ左右ノ脈状ノ相違^{サガ}スルハ。急變^{キハ}ノ起^{オキ}ル有^{アル}モ
ノナレバ。能^{ヨシ}餘證^{シヨク}ニ參互^{ヒキアヒ}テ。其未然^{ゼン}ニ熟察^{ジュクサツ}シ。預防^{フベヤ}
ノ處置^{テアテ}ヲナスベシ。

證^シも脈のありき油^ユ路^ロするもろもろぬ脈のありきものぞり
古人モ。大凡脈證不合者。中必有^{カン}奸^{イフ}ト言^{イフ}テ。脈ト證
トノ齟齬^{ソゴ}者ハ。病ノ轉化^{ナリユキ}測^{ハカリ}ガタキ者ナリ。サレバ

其^{カシ}潜伏^{トコロ}ノ邪毒^{ジャドク}ノ有^{アル}無^{ナシ}ハ。脈ニテ察^{サツ}セラル、者ナ
レバ。脈ニ異状^{アヘキカタチ}ノアルハ。見證^{ミシヨク}ニサセル苦惱^{ナヤミ}ナシ
トモ。必^{オホク}忽^{オホク}ニ視^{ミル}ベカラズ。能^{ヨシ}心ヲ用^{ヨウ}テ診^シハ。其變^ヒ
動^{ドク}ハ果^{ツク}シテ觀^ミ得^{ツケ}ラル、者ナリ。

脈^{ツキ}の海^{ウミ}あるもろもろぬ脈のありきものぞり
程子ノ言^{コト}ニモ。觀^{ミル}物^{モノ}於^ニ靜中^{シヤウチュウ}。皆有^{アル}春意^{シュウイ}。切^キ脈^{ツキ}最^{モトモト}可^カ體^{テイ}

仁^ニトアリテ。人身ノ生活^{セイカク}スル所以^{ソノイハレ}ノ者ハ。此春意^{シュウイ}
ノムツクリトシタル。言^{イフ}ニイハレヌ神彩^{シヤウサイ}アル故^{ユヘ}
ナリ。今此脈動ノ上ニ於^ニテモ。直^{ジキ}ニ生成^{セイセイ}一氣^{イツキ}ノ流^{リウ}

行ナレバ。假令病苦アル者ノ脉ナリトハ。心ヲ潜テ
診ニ。此春意ナキ一能ズ。若此春意ヲ失ハハ。死ニ
赴一近キニアリトス。此段ニ至テハ。深心ヲ注テ
精思熟察ニアラ子バ。知得ル一難シ。是ヲ知ザレ
バ。死生ヲ決ル一ハナラズ。サレバ後進能之ヲ念
テ遺ル一ナク。平素無病壯健ナル人ノ脉ヨリ診
認テ。之ヲ病者ニ校シ。此春意ヲ觀得ン一ヲ庶幾
ベシ。

うしんしてしんじょうのついでにんあつるふしあはるる

本篇。炙甘草湯ノ條ニ。傷寒。脉結代。心動悸。炙甘草
湯主之トアリテ。其方ハ至テ拙ク。採用ガタキ一
ハ。古人モ既ニ論アレバ。今省テ載スト雖結代ノ
脉ハヲリ々診ル一アレバ。且其形狀ヲ此ニ示ス
ナリ。難經ニ。脉來去一止。無常數。名曰結也トアル
ガ。即ウチギレノ脉ナリ。代ハ。粟代ノ義ニテ。實大
トミユルガ。忽栗弱ヲ見シ。或ハ忽數ニナリ。乍踈
ニナリ。或ハ斷テ復起モノヲ云。サレバ結代トツ
ヅケテイヘト。其實ハヤ、異ナリ。結ニシテ代ナ

ル者ハ希ニ診得ルトコロナレド。平常ニ此結ノ
 脉アルハマ、アルナリ。是ヲ必癥塊アリテ。血
 液虚耗ノ人ナリト言ル説ハ。然ルベキナレド。
 又。其血液ノ有餘ニシテ流利アシク。澹滯易キ人
 ニモマ、アル脉ナレバ。唯一概ニ虚耗トノミハ
 定テ言ベカラズ。是亦記得ベシ。

脉ノ借病と云ふは、脈多病位と死生をさぐる
 脉ニ病ヲ部點テ。脉ニ由テ病ヲ知ト云ル説ハ。決
 シテ虚誕ナリ。元來脉ヲ切ハ。唯其病ノ在トコロ

ヲ知其淺深輕重ト。死生進退トヲ決斷スルマデ
 ニテ。脉ノミヲ診テ。中々何ノ病ト云トヲ知ル
 者ニハアラス。初學輩決シテソレラノ妄説ニ惑
 一ナカルベシ。

腹と證との争をいふを診る脈を治法の決断をいふ

治法ノ決斷ヲスルト云ハ。病位ヲ知テ後其的當
 ノ方ヲ定ルナリ。診脉ノ專要トスルトコロハ。
 唯此一事ニアルノミ。

脉經の二十は脈をいふがごとくぞ七死の脈の名も無量あり

二十四脉ノ無用ナルハ。既ニ言ルガゴトシ。七
 死ノ脉ハ。彈石。解索。雀啄。屋漏。蝦遊。魚翔。釜沸ナリ。
 其名ノ如ク怪脉状ナランニハ。假令不虞ニ其脉
 ニ會イデラフアリ氏。一タビ診ナバ。不治ノ脉トハ知ル
 ナリ。サレバ強ニ其状態ヲ記得オボエントスルハ。益
 ナキヲ曠アモクナリ。

指をさしてみるこゝろをみればはたしむる心は脈のつがとりのこと

今吾醫ノ術ヲ修テ。脉ヲ診。病ヲ察シ。方ヲ處スル
 一ノ過寡カラアヘナクン。一ヲ欲バ。唯務テ俗情妄慮ヲ去オク

名聞ミクモシ榮利エイリヲ離テ。其心ココロ意イヲ清キヨセン。一ヲ希ネガフベシ。此
 心ココロダニ清キヨクシテ。物欲モノヨクノ爲ニ昧クマサレズ。順逆ジュンギャク毀譽キョウヨ
 ノ爲ニ動ウツクサル。一ヲナクバ。鏡ニ影ノ映ウツルガ如ク。身
 體ノ病苦ヤマヒニ於ルモ。造化シヨクノ運用ウツク自然シゼンノ所爲シヨモ。病
 ヲ治スベキ條理ジョウリモ。自胸裡オノムネニ現テ。ヲリクハ自己オノココロ
 ニモ駭オドロクル。ホドノ妙タシアルベシ。竊ヒソカニニ生成セイセイ一氣ノ
 流行リウコウヲ觀ズルニ。今此賤シキ伎キヲ以テ職業シヨクトスル
 モ。亦是天ヨリ此身ニ受得テ。造化シヨク自然シゼンノ條理ジョウリナ
 レバ。道ミチベキニアラスト思ヒテ。唯オノ勢セテ天地生

成ノ心ヲ以テ心トナシ。忠實愛隣ノ情ヲ以テ。治
 術ヲ爲ン^テヲ要トスベシ。念々コ、ニ在テ。歲月
 ヲ積^ム久シケレバ。其心裏イットナク清^ク潔^クニナ
 リテ。聊モ外物ノ爲ニ動サレズ。下點ノ塵埃モ遺
 ガルニ至テ。自其成^ル効^ハ見ル者ナリ。長田徳本。嘗
 テ言ル^クアリ。凡病證ヲ見ルニハ。虚心實腹トテ。
 心中ニ下點ノ念慮ナク。氣海丹田へ氣ヲ納^メ病人
 モナク我モナク。只何トナク手ヲ下セバ。妙ニ知
 レル者ナリ。必^ズ忽^ク諸ニスル^ルナカレト。是^レ脉ヲ診^ス

腹ヲ候^フ用心ノ最^モ切^キナリトスル所ナリ。此^レ妙ニ知
 レル者ナリトイヘル語ニ。心ヲ注^ステ味^フベシ。是
 徳本ガ晩年自得ノ心法ニテ。其術ノ衆ニ超^スタル
 所以ナリ。然^レドモ稍^ヤ其域ニ近^キ人ナラデハ。其本
 旨ヲ知^ル能^ズシテ。猶^モ疑^ハ懐^ク者アラン。後^ニ進^ム
 ヲク^ク勉^メ勵^ステ。其地位ニ到^リン^テヲ庶^ク幾^クベシ。

歌傷寒雜病論俗辯卷一

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 傷寒, 雜病, 論, 俗, 辯, 卷, 一, and 一.

